

令和4年度 第5回岐阜県社会教育委員の会 議事録要旨

1 日時 令和4年12月16日(金) 10:00~12:00

2 場所 OKBふれあい会館 405会議室

3 出席者(委員の現在数14人 出席者9人)

<委員>

天野 知子
加藤 一紀
野中 準二
益川 浩一
松山 昌代
村瀬 眞実
森 清美
山本 真紀
米原 木ノ実

<事務局>

環境生活政策課長 山田 浩司
生涯学習企画監 石井 幹也
生涯学習係長 野村 めぐみ
課長補佐 堀 正樹

4 確認事項

- (1) 岐阜県社会教育委員の会について
- (2) これまでの協議内容及び審議題の確認について

・資料をもとに事務局から説明

益川議長：ご質問等いかがか。

一 同：特になし。

5 研究・協議

- (1) 実践発表：瑞浪市社会教育委員会学校教育課

講師：統括コーディネーター 吉村 美信 氏

発表内容：「三課合同会議による学校運営協議会と地域学校協働活動の推進」

- (2) 発表者との質疑応答

益川議長：特徴的なところが浮き彫りになった。3課で連携されているところがまずは大事なところ。集落支援員さんも機能しながら推進員的な役割を果たしている。

瑞浪市内には、1小1中、地域には小中学校もない地区(大湫地区)などさまざまあるが、地区の現状に合わせながら、進めているのがユニーク。学校運営協議会ではなかなか子どもたちの顔が見えない現状ではあるが、子どもたちが主人公になっていることが特徴的。岐阜大学も市民協働課にはお世話になっており、小中高大まで含めて連携している。

まず、お話を聞かれてご質問などはいかがか。

加藤委員：自分たちの活動にも当てはめていけるところがあると考えている。

岐阜市にも大河ドラマ「麒麟が来る」の関係で、歴史博物館に土産物屋ができるようになったとき、様々な手続きを所管する課が違い、非常に煩雑だった。その際に横連携は難しいのかなと感じた。3年かければこういった連携が可能なのか。それとも3年も時間がかかったなというご感想か。

吉村氏：現在4年目になり、基盤があって当初からうまく回っていた。

加藤委員：今後、まちづくりの関係で岐阜市や県とかかわって進めていくことがあるので、参考にさせていただきたい。

益川議長：所管や行政組織上の問題で地域学校協働活動の推進が難しいということを抱えている自治体もあるなか、瑞浪市は非常に丁寧にやられている、下から積み上げる形で、聞き取りなどもされたということもあり、少し煩わしいことも経て連携などができるといふことかもしれない。

天野委員：社会教育委員がどの協議会にも参加されているということで、自分の市町に当てはめると、社会教育委員ではあるが、スポーツや青少年の立場から参加されているという認識で、社会教育委員という立場であるということがあまり知られていないのが現状。社会教育委員が認知されておらず、今後どのように社会教育委員の活用をアピールし、参加していったらよいか。

吉村氏：3課に社会教育と学校教育が入っており、社会教育委員の有賀代表が学校運営協議会は社会教育委員を使うべきだと発信されていることもあり、かなり活用されている。また、社会教育委員も研究を進めているという自負があり、嫌とは言われない。

益川議長：社会教育委員としての活動は捉えにくいところがあるが、瑞浪市では社会教育委員の会で研究も行われていることもあり、それぞれの学校運営協議会で社会教育委員として活動されており、上手に社会教育委員を活用されている。

(3) 審議題に基づく交流

益川議長：研究協議の1つめ、展開されている協働活動の良さ、組織づくり、人材活用の面からもご意見いかがか。

山本委員：あるもの活かしの発想で、今ある活動や組織を生かそうとしたこと、実態・現状把握などのリサーチから事後のアンケートまでサイクルができており、そういったもので基盤や枠を作られたことが素晴らしい。モデル校を作られてそこから広げられた手法や、対話による協議からはじめられたことがプロセスとして素晴らしいと感じた。人材の良さは、統括コーディネーターの役割が一番大きいと思う。集落支援員等を推進員として育成している点、社会教育委員のメンバーのつながりを大切にされているところも素晴らしい。

子どもサミットのような形で子どもの目線での参画を大切にされている。ミニリーダーのようなキーパーソンに続く方がいらっしゃることが素晴らしい。

行政へのアピールポイントとしては、縦割りの行政の中で、三課合同はぜひ広まっていくとよいと思う。補助金の活用など、それぞれの担当分野を上手に活用されている。住民へ活動を知ってもらい、伝えていく広報を実践されており、素晴らしい。

益川議長：三課合同で、各課の良いところを取り入れて強みを生かしているところが大きなこと

ろ。子どもの参画もおもしろい。子どものために学校運営協議会や地域学校協働活動などがあるが、子どもが少し置き去りになっているのではという現状があり、地域学校協働活動を進めていく中で、全国的に課題となっていることでもある。そういった意味では、子どもの顔が見える活動はとても貴重な取組み。子どもサミットの取組みは、順調に進んだのか。

吉村氏：学校運営協議会の会長が社会教育委員で公民館の館長もされていることもあり、上手にコーディネートして進めていただいている。

益川議長：全体を俯瞰してみる吉村氏のような方がいらっしゃるうえで、より実態に沿った形でリーダーを支援するサブリーダー・ミニリーダーが育っていくというのが大切。

松山委員：小学校の実践例があったが、不登校やいじめにあって相談室に来る子どもたちの支援について、コミュニティ・スクールでどのように関わっていけるかに興味があるが、中学校についてはどうなっているか。

吉村氏：具体的に進んでいないのが実情。組織と目指す姿を中心に進めているところ。大事な視点だと感じる。

松山委員：発達支援の先生が足りないということから、そこにも何らかコミュニティ・スクールから関わりができないかと考えている。そこに発展していく実践があれば聞きたい。

吉村氏：学校の壁は高いかもしれないが、人手が足りない中で、地域の方が支援に入って上手に活用されることがあるかもしれない。

益川議長：不登校の子どもに対する居場所づくりにかかわったり、発達支援にかかわったりしている事例はある。非常にデリケートな問題なので、地域の方がかかわっていくのは難しい部分もある。ただ地域全体でということであれば、今後必要になってくるのではないか。全国には現在取り組んでいる地域・自治体もある。

米原委員：活動事例の中で、日吉小の子どもサミットについて、6年生児童全員というところがポイントだと感じた。代表だとなかなか出ないような意見も、全員だから面白い意見が出て来て、何よりも子どもたち自身のアイデアなので、やらされている感がなく、能動的に動くということが素晴らしいと感じた。

益川議長：学校運営協議会や地域学校協働活動は、少し年月が過ぎ新しい方向性なども興味を持たれている中、今後子どもの参加・参画というのが1つのポイント。松山委員の発達支援・不登校支援のようなものに関わっていく可能性もある。そして、吉村氏のお話にもあった学校評価といった視点もある。

村瀬委員：瑞浪市のみなさんの活力を感じた。学校の中は、大きい問題が本当は別のところにあるのに、1つ1つの問題に対応して日々過ぎていくところがあるが、それではダメで、もしかしたら地域との協働がすべての問題を解決できるのかもしれないという思いで、学校経営をすべきということを県の校長会へアピールしたい。どこの現場も疲弊していると感じるが、活力を持って働いてもらえるような校長でありたい。校長として学校が何をつないでいくのかを見極めていきたい。

益川議長：3課会議として、学校とのかかわりという点で気をつけている点などあるか。

吉村氏：学校へは頻繁に訪問して、先生とお話する機会を持っている。

益川議長：瑞浪市内の中でも、1小1中、大規模校と小規模校、地区には学校がないところもあり、個々の学校においても、地域学校協働活動が大事なことはわかっているけれども、どう進めてよいかということは迷われて個別に違うと思うが、地域の特性に合った形での組織づくりを進められコーディネートされているところ、その基盤として3課が情報共有をしながら進められたのが素晴らしい。

吉村氏：中学校については市長の働きかけが大きかった。中学校がなくなる地区に対して、中学校が消えてしまうという意識を持たせないように統合を進められた。

益川議長：学校のない大湫地区も歴史学習といった形で上手にかかわって、地域全体で子どもを育てていくことが大事だということが根付いており学ぶべき点が多い。今後、学校の統廃合も進んでいくので、地域とどのようにかかわっていくかということについて非常に大きなヒントになる活動である。

森委員：まちづくり交付金の使い方について、自分の地区でも全体で使うように話し合っているが、なかなか実践できていない。瑞浪市では子どものために使われているということで、参考にさせていただきたい。

益川議長：3課での情報共有を通して、それぞれの強みを生かし有効に活用されている事例であった。

野中委員：日吉小の子どもサミットは目指す姿を決める段階から開催されているか。

吉村氏：こどもの挨拶運動という具体的な活動について、子どもの意見を聞くという形である。

野中委員：大人が決めるのではなく、子どもと大人と一緒に決めていくプロセスが、当事者意識を持って非常に良い。小中一体で学校運営協議会を立ち上げられたことは、今後小中一貫校も増えていくので他の自治体の参考になるのではないかと。3課合同会議については、それぞれが持っている情報・アイデアを出し合って共有できたのかなと思う。メンバーがある程度権限があるからスムーズに意思決定ができ、それをうまく吉村さんがまとめられた。いずれにしても組織横断の会議は、これから立ち上げる地域には参考になっていくと思う。

益川議長：ここまでしっかりと情報共有しながらやられているところは少ないかもしれない。会議に課長、そこで意思決定できる立場の人が入って議論されているのが大きい。

山本委員：社会教育委員をメンバーに入れていかれているという話だが、主任児童委員は入っているのか。

先ほど言い忘れたので、県の長期的な支援を受けているということで、そのような支援を活用されているのも良い点だというのを付け加える。

吉村氏：学校評議員会の流れで、主任児童委員が学校運営協議会に入っている。

益川議長：福祉と教育の谷間で見過ごされがちの方があって、子どもの貧困、ヤングケアラーなどの問題もあり、福祉とどうつながっていくのかということも課題となっている。福祉的な側面からの視点を通じた活動も考えていく必要がある。

天野委員：保険についてだが、社会教育で関わった人たちは個人で入り、学校で関わった人はP T Aと、みんな保険がばらばらだった。同じものに3つくらい入っていたこともあり、どのように対応されているかぜひ知りたい。県に保険の情報を集約して周知いただきたい。

吉村氏：解決していない。一番良いのは、市長会の保険に包括的にコミュニティ・スクールまで入れていただくことだと考える。

益川議長：自治会の名前を入れて地域学校協働活動と共催にしたうえで、自治会活動の保険を活用したり、公民館の看板を借りて、公民館の保険を活用されている例がある。

山本委員：民間の保険会社の自治会活動保険を活用している。年間の活動計画を提出のうえ加入し、参加住民が対象となる。学校の授業において共同で実施する際はPTA関係の保険、ボランティアや講師はボランティア保険や1日のレクリレーション保険等を使っている。

益川議長：自治会活動を地域学校協働活動と位置づけて、自治会活動保険に加入している地域が多いのが実態。

子どもが関わっていることもあり、地域学校協働活動における安全管理は大切。このあたりも我々の研究課題かもしれない。

本日のまとめとして、地域学校協働活動の良さについては、3課合同会議でそれぞれ権限のある人が役割を果たしつつ連携されており、それぞれの課の強みを生かした形で取り組みを進めているところが1点目。2点目は、1つの自治体の中でもいろいろなタイプの地域・地区があり、それぞれの地域にあった組織づくりがされていること、3点目は、聞き取り調査など、非常に地道なことを、積み上げ方式で実践され組織づくりをされたことである。4点目は、人材の利活用が優れていること。社会教育委員が学校運営協議会の委員になっていることや、集落支援員が研修に参加し造詣を深めて取り組みを進めている。自治体の職員が1人地区に付いて全体を見渡しなが、地域と役所をつなぐ役割を果たしていることも重要。5点目は、本部を新たに立ち上げるのではなく、あるもの活かしの視点で、まちづくり協議会や集落支援員をうまく生かしていること。6点目は、目的・目標、目指すべき子ども像の共有ができていていること。7点目は、子どもが主人公という視点で、しっかり地域住民とかかわって子どもが参画していること。

展開される人材の良さは、行政、学校、地域それぞれの立場から現状を俯瞰できる人がいるということ。統括コーディネーターを置く意味は大きい。学校のない大湫地区で学校に関わる活動ができるというのは統括コーディネーターがいたからだと感じる。また、立ち上げだけではなく、継続的に伴走支援していることが活動のさらなる促進に必要だと感じる。

県へのアピールポイントは、重なることであるが、3課合同会議でそれぞれの強みを生かして活動を進めていること、人材の利活用・育成がされていること、さらに地域の特徴に応じた組織づくりがしっかりできていること。さらに、子どもの参画がうまくいっていること。そして、広報・情報共有がしっかりされていること。ある特定の人やっているわけではない、いろいろな人が関わっていることを知らせていく活動が良い。他の自治体には大変参考になる報告だったと思う。

審議題とはずれないかもしれないが、将来を見据えた視点として、子どもの参画、評価、発達支援との関わり、学校統廃合への対応、福祉との接点、大規模校と地域の関わりといったことを考えるきっかけをいただいた。

益川議長：議事が終了したため、進行を事務局へお返しする。